

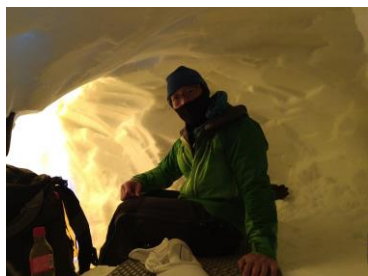
櫛ヶ峰北西壁

堀江 誠克

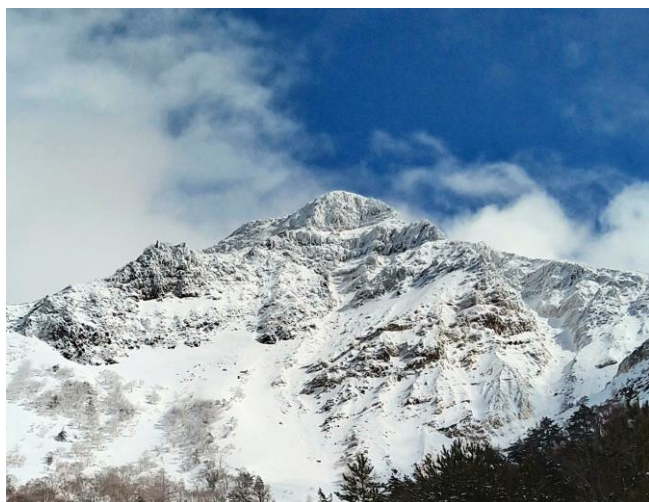
■山行年月日:2022年3月20~21日

■メンバー:堀江誠克

快適な雪洞泊をして冬壁のソロを楽しみたい。といえば、櫛ヶ峰の北西壁なのである。初日はアプローチだけなので、家でのおんぼり準備をし、昼前に家を出る。裏磐梯スキー場に車を止め、13時、スキーで歩き出す。当然のようにリフト

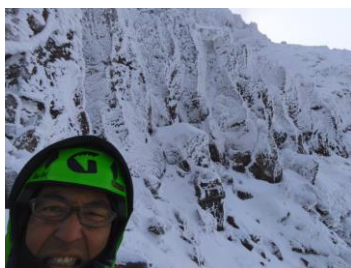


を使い、時間と体力のセーブ。銅沼をすぎ、いつものルートで取付きの沢へ。積雪は十分。排雪を考えると急傾斜の沢側面に BIVI 地を定め、穴掘り開始。ちゃんとしたスコップを持ってきたので、楽勝で快適な雪洞



ぶりあり、温かい飲み物や食べ物を次から次へと飲み食いして早めに就寝。

取付きへの競争もないので、ゆっくり起きだして朝食。ギア身に着け、7時に



雪洞を出る。一人だし、雪も少なめなので、左のルンゼ状か

ら、北稜に出る簡単なラインをたどる。いつもながら、風が強く、アルパイン気分を堪能できる。下部のルンゼ状はほぼダガーポジションで、北稜に抜ける直前のミックスも数ポイントのドラツで抜けられる。北稜に抜けた後の急傾斜のハイマツ帯のほうが緊張した。

頂上で裏磐梯の湖沼群、磐梯山、猪苗代湖など景色を楽しみながら行動食を摂る。ついでに、気象庁の太陽電池パネルとライブカメラに貼り付いたエビの尻尾も落とす。西尾根から取付きの沢に降り雪洞へ帰還。



一週間後雪は落ちていた